

標 題 : Extra virgin olive oil phenols and markers of oxidation in Greek smokers :  
a randomized cross-over study  
エキストラバージンオリーブ油のフェノール化合物とギリシャ人喫煙者の酸化指標：  
ランダム化クロスオーバー研究

---

著 者 : J. Moschandreas, et al. (ギリシャ クレタ大学 社会医学部)

---

掲 載 誌 : Eur. J. Clin. Nutr. 56: 1024-1029 (2002)

---

要 旨 :

目 的 : 低フェノールオリーブ油および高フェノールオリーブ油の酸化指標および血漿の酸化されやすさに対する影響を、正常血中脂肪の喫煙者で研究すること。

計 画 : 2介入群によるランダム シングルブラインド クロスオーバー試験。

設 定 : ギリシャ、クレタ島、ヘラクリオンのクレタ大学医学部および付属病院。

被験者 : 21人の健康な男性と女性が研究を完了した。

介 入 : 各介入期間は3週間で2週間のウォッシュアウト期間で分離した。介入期間には17gのエキストラバージンオリーブ油を毎日各被験者に供給した。供給したオリーブ油はフェノール化合物含量が18.6mg/日異なった。2つの空腹時静脈血液サンプルを各期間の終わりに採取した。

結 果 : 空腹時血漿サンプルで測定した抗酸化能力の指標(血漿全体の酸化への抵抗性、タンパク質酸化の指標としてのタンパク質カルボニル濃度、脂質酸化の指標としてのマロンジアルデヒドとヒドロパーオキシド、そして血漿の鉄還元力)は、低フェノールと高フェノールのオリーブ油の間で有意差がなかった。

結 論 : 喫煙者の酸化指標に対してオリーブ油の影響はないと見いだされた。オリーブ油中におけるフェノール化合物の天然濃度は、吸収後に影響するには低すぎるためであろう。

期間の影響の可能性および食事と投与期間の相互作用について、今後のクロスオーバー試験が役に立つことに注目する必要がある。

資金援助 : オランダ Vlaardingen のユニリーバ研究所。

---

キーワード : フェノール化合物、オリーブ油、クロスオーバー試験、酸化速度、脂質ヒドロパーオキシド、マロンジアルデヒド、タンパク質カルボニル、FRAP、喫煙者